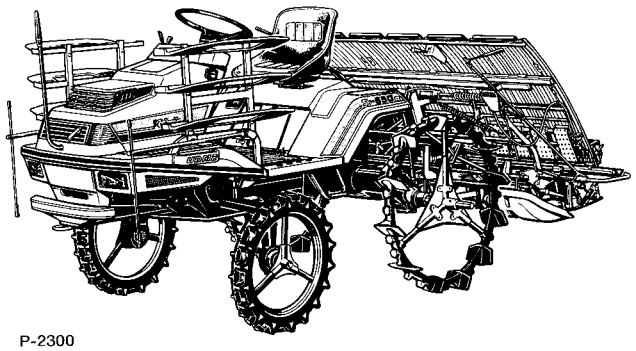
クボタ乗用田植機

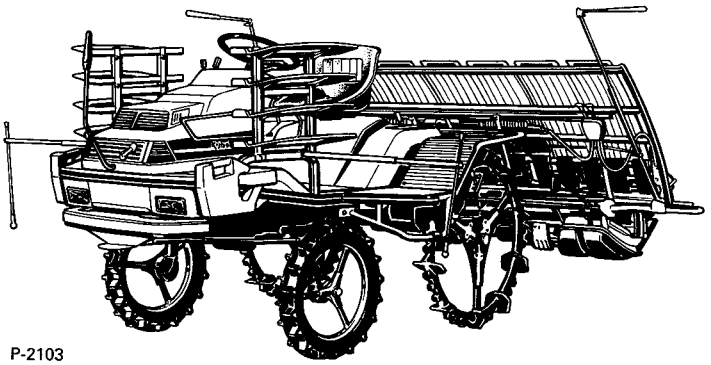
取扱説明書

RAINBOW

S1 -650R -800R



P-2300



P-2103

ご使用前に必ずお読みください

Kubota

乗用 田植機 ✚ 安全五憲章

1．路上走行(農道)のときはブレーキペダルを連結し，
低速で路肩くずれに注意します。

2．ほ場への出入りはあぜに直角に行ない，あゆみ板は
車輪幅に合った横滑り止めのついたものを使用します。

3．斜面を下るときは，主変速「植付」でデフロックを使用し，
上るときは「後進」で斜面に直角に行ないます。

4．エンジンの始動はクラッチを「切」，主変速を「中立」
にして周囲をよく確認して行ないます。

5．植付け部の点検・調整は，エンジンを止めて行ないます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項を，これ以外にも本文の中で 安全ポイント としてその都度とり上げております。
更に，安全ポイントを抜粋した安全注意ポスタ・納入品安全説明書を別冊にして添付しておりますので，よくお読みいただいて必ず守ってください。

はじめに

このたびは本製品をお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は，S_1-650R・800R仕様について特に異なる部分の取扱い方法・簡単な点検及び手入れについてのみ説明してあります。その他の説明につきましては別冊の取扱説明書をご覧ください。よくお読みいただいたうえ，皆さんの土地の実情にあった性能を十分に発揮させ，末長くご活用ください。皆さんの土地の実情に応じた，本製品に合った育苗を，もよりの試験場や普及員の方々に相談して行なってください。

なお，本書では田植条数及び派生形式によって下記の様に表示しています。

条数	型　式	仕　　様
6条	S_1-650R	UDM2, UDM2E
8条	S_1-800R	UDM2, UDM28, UDM2C, UDM2CL, UDM2E, UDM2E8

〔表示内容〕
R：ロータリ式植付爪
M：ハイメカモンローマチック
UD：ウルトラデラックス
E：Eシフト

お手元の製品の仕様をお確めの上，おまちがいのないようご活用ください。各仕様の機能装備は巻末の装備一覧をご覧ください。

又，本製品については不断の研究成果を新しい技術として直ちに製品に取入れておりますので，お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますので，あらかじめご了承ください。

45651-9151-8

目次

各部の名称…… 1

装置の取扱い…… 2

スイッチの取扱い…… 2
各装置の取扱い…… 2

作業前の点検について…… 4

給油と注油箇所…… 4
各部の調整…… 5

エンジンの始動と停止…… 6

始動のしかた…… 6

路上走行について…… 7

路上走行のしかた…… 7

トラックへの積み・降ろし(S_1-800R)…… 9

積み・降ろしのしかた(S_1-800R)…… 9
植付け部の着脱のしかた(S_1-800R)……10

田植作業前の準備……14

株数の決定と調節……14

植付け作業のしかた……15

枕地のとりかた(S_1-800R)……15
旋回のしかたとマーカの使いかた……15

施肥量調節のしかた(S_1-800RF)……16

各部の点検と交換……16

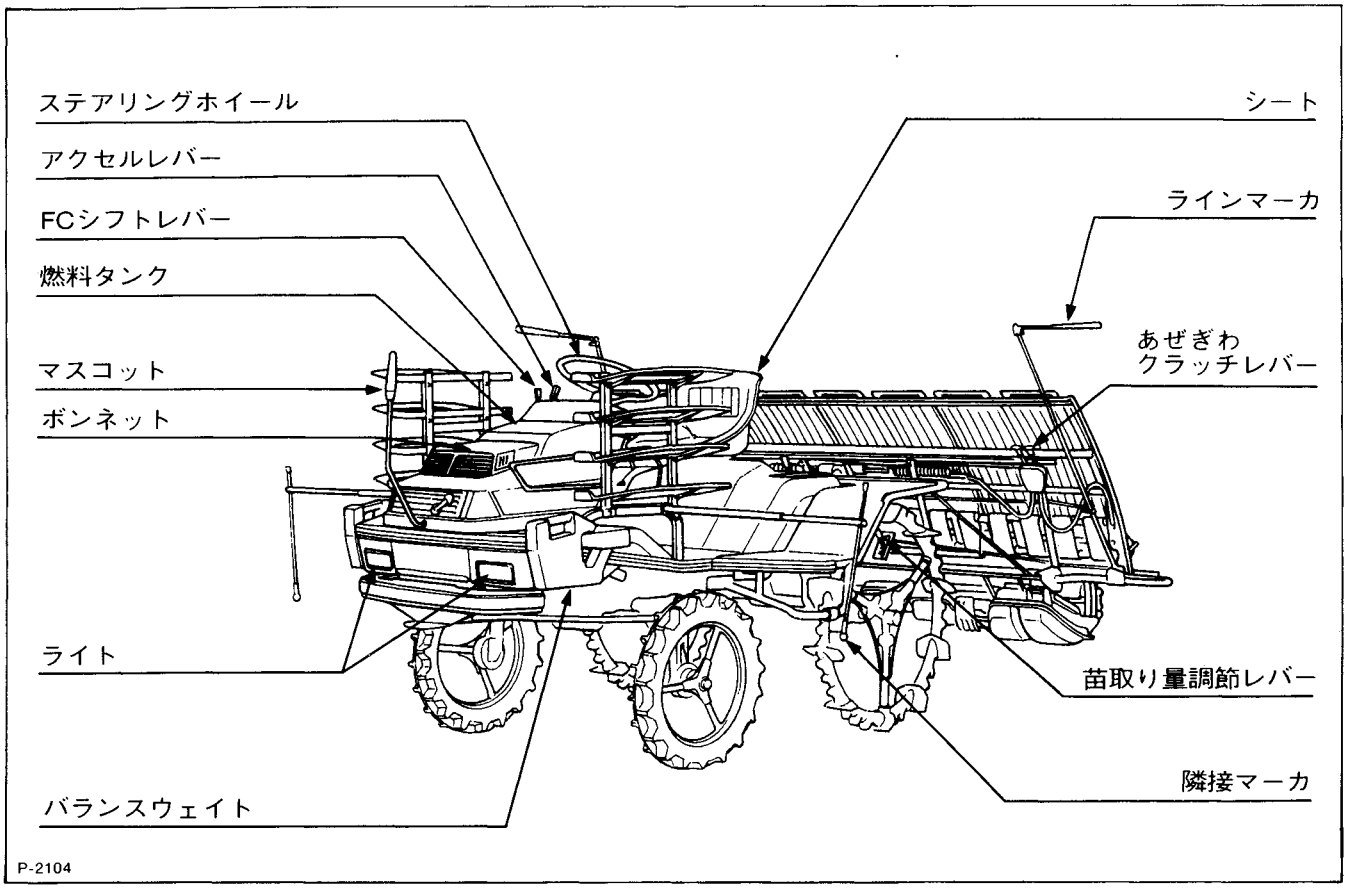
エンジンオイルの交換……17
電気配線の点検・ヒューズ・ランプの交換……17
バッテリの点検保守……17

主要諸元……18

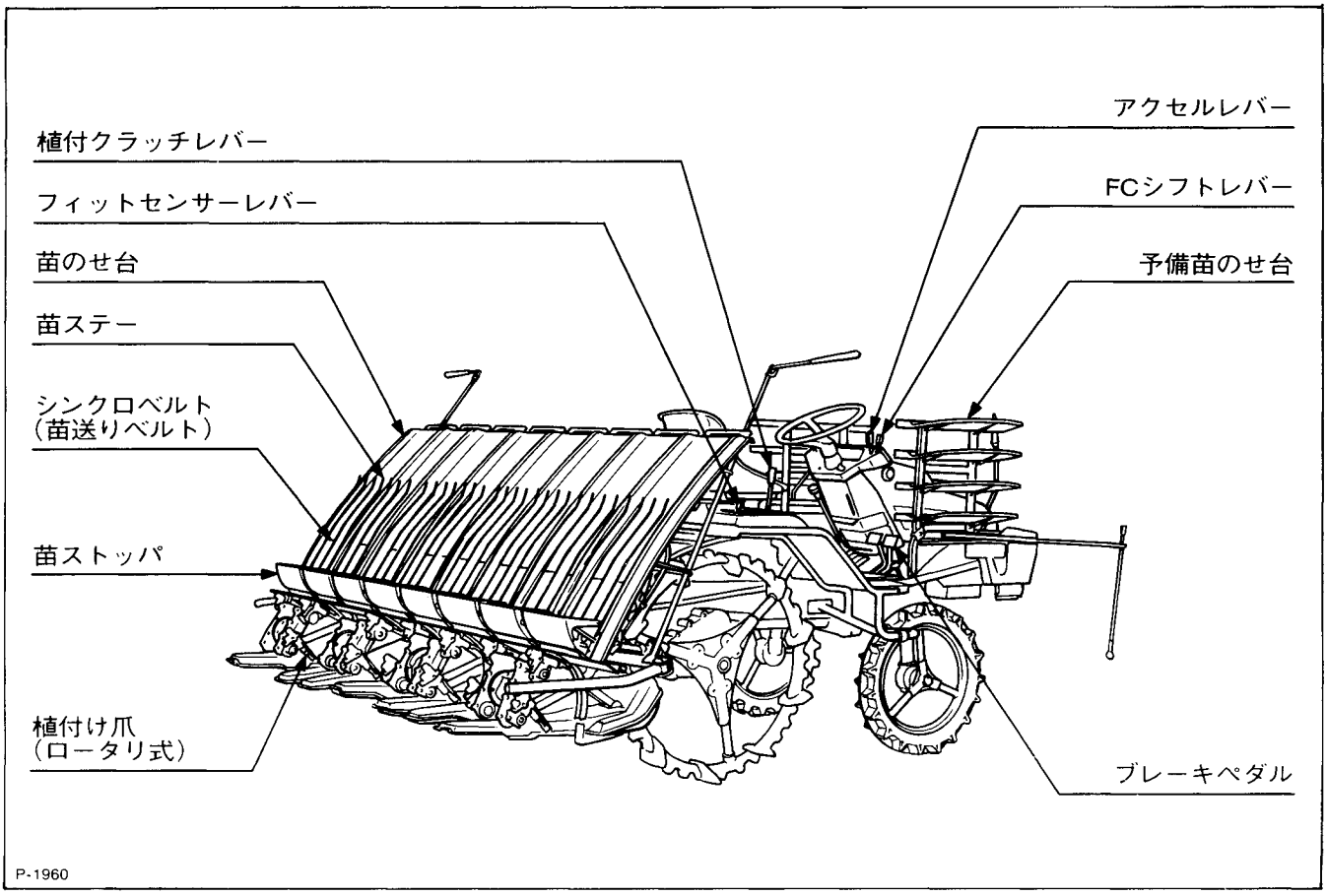
機能装備一覧……19

オプションについて……20

各部の名称



P-2104



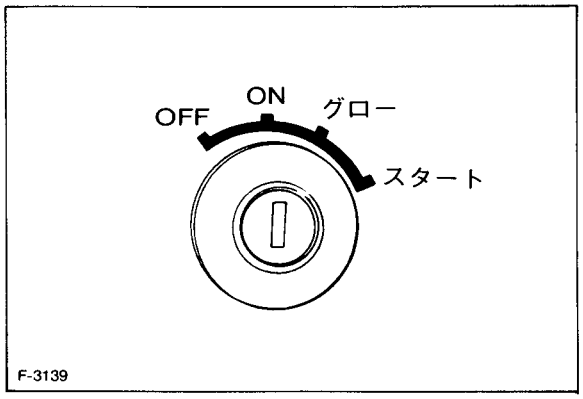
P-1960

装置の取扱い

スイッチの取扱い

■メインスイッチ

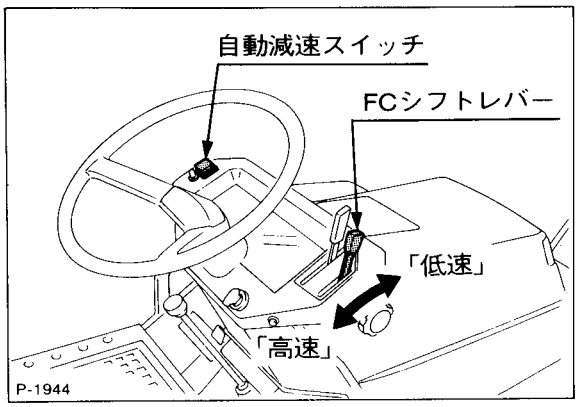
ＯＦＦ……エンジンが停止する位置。
ＯＮ……エンジンが回転中の位置。
グロー……予熱する位置。
スタート……クラッチペダルをいっぱい踏みこんで始動。
手を離せば自動的に「ON」に戻ります。（クラッチペダルを踏まないと始動しません。）



各装置の取扱い

■FCシフトレバー
（自動減速付新無段変速）

FCシフトレバーにより広範囲な速度が軽い操作力で無段階に変速できます。
エンジン停止時，レバーを操作しても変速されません。エンジンを始動して変速してください。

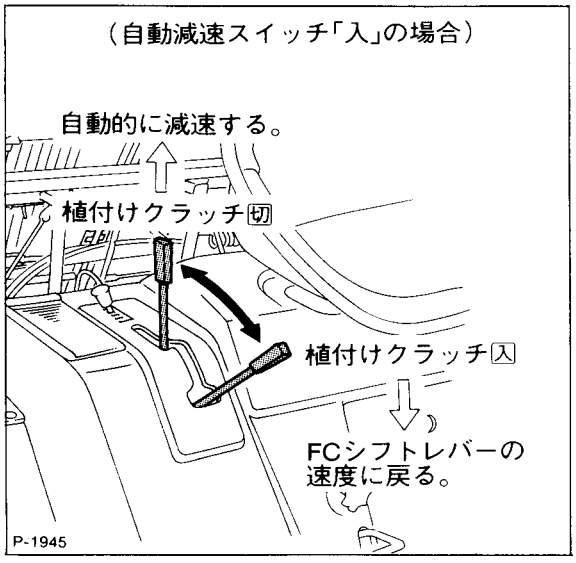


■自動減速スイッチ

スイッチを押すごとに「入」，「切」に切替わります。

❶「入」（スイッチランプ点灯）にしておきますと，
植付けクラッチを「切」➡FCシフトレバーに関係なく自動的に減速します。
植付けクラッチを「入」➡自動的にFCシフトレバーの速度に戻ります。

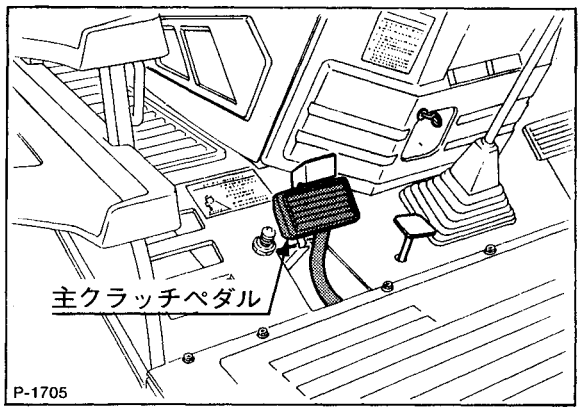
❷浅田での旋回や路上走行など，自動減速が不要の場合は，自動減速スイッチを「切」（スイッチランプ消灯）にしてください。



■Eシフト(UDM2E仕様)

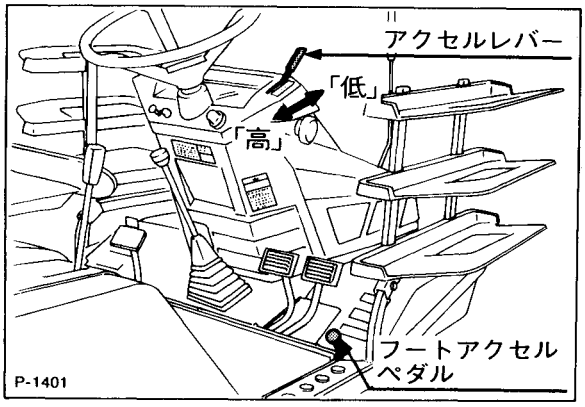
◆マイコンソフトスタート

自動減速スイッチ、FCシフトレバーに関係なく、クラッチペダルを踏み込んだときは、自動的に最低速度になり、主クラッチペダルを戻すと、徐々にFCシフトレバーの設定位置まで増速されます。
常に最低速度の発進ができます。



◆マイコンソフトオート

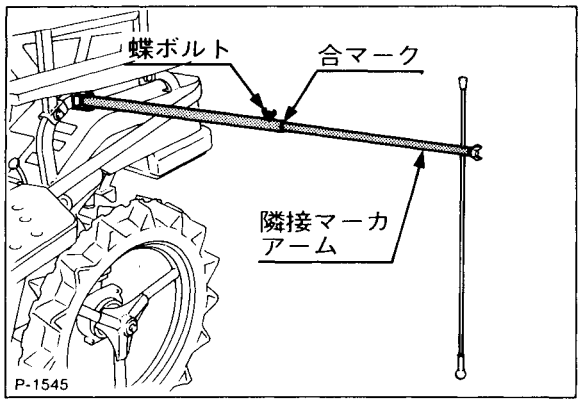
自動減速スイッチを「入」、植付けクラッチを「入」にし、アクセルレバーを最高位置、またはフートアクセルペダルをいっぱいまで踏んで作業中に負荷がかかったときに自動減速し、負荷が軽くなると自動復帰します。
※Eシフトは、従来の自動減速機能(ワンショット減速)も含んでいます。



■隣接マーカ

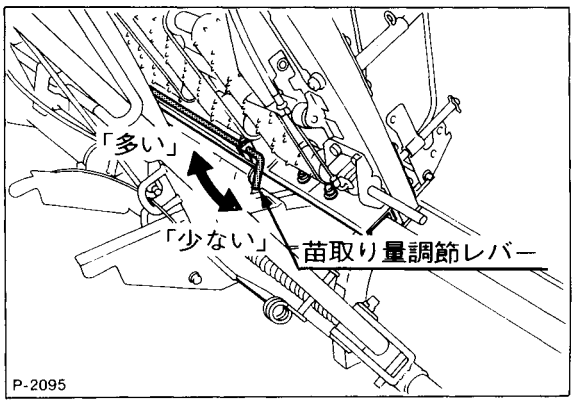
(S₁-800RUDM2・800RUDM28)

隣接マーカアームが伸縮式になっていますので作業時は，蝶ボルトをゆるめて，合マーク位置でセットして使用してください。



■苗送り量の切換え

植付け時，苗送り量が多いときはレバーを「少ない」方にしてください。



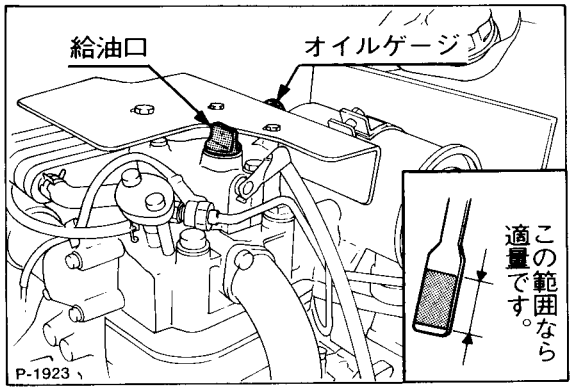
作業前の点検について

〈ここを〉		〈こうする〉
燃料タンク	●作業に必要な燃料がありますか。	●補給します。（タンク容量８ℓ） クボタディーゼル重油又はディーゼル軽油
エンジンオイル	●オイルゲージの上下刻線の間に油量がありますか。 搭載エンジン……OC95-DP-1	●補給します。 クボタ純オイル　D10W30……1.7ℓ （ディーゼルエンジン用）
ミッションオイル	●オイルゲージの上下刻線の間に油量がありますか。	●補給します。 クボタ純オイル　M80B……6.2ℓ （ミッション油圧兼用）

給油と注油箇所

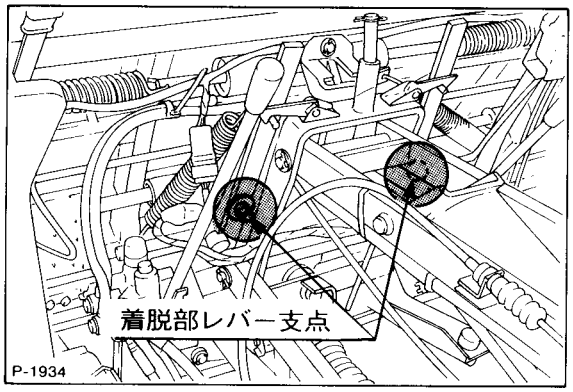
補給

●エンジンオイルの点検・補給



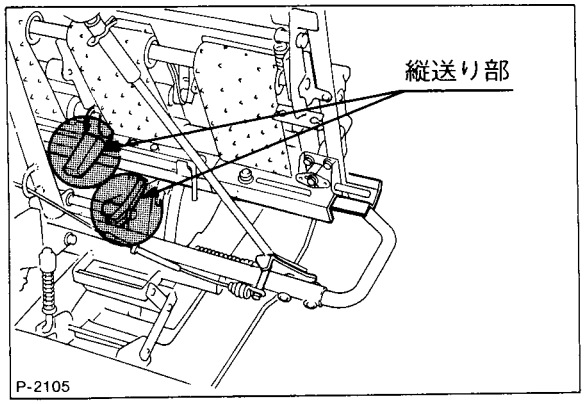
注油

●着脱部レバー支点



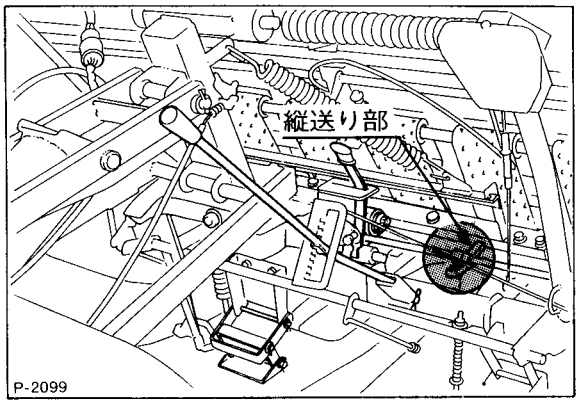
注油

●縦送り部



注油

●縦送り部

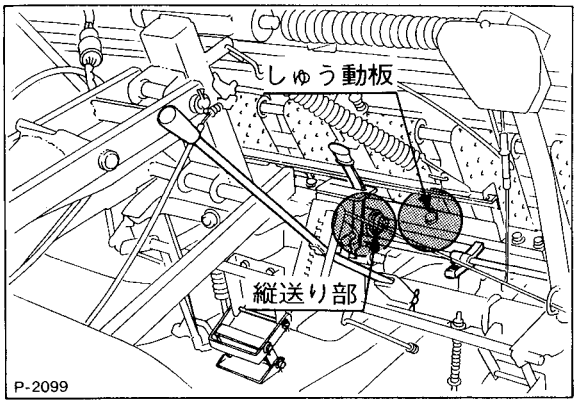


給油と注油箇所

グリース給脂

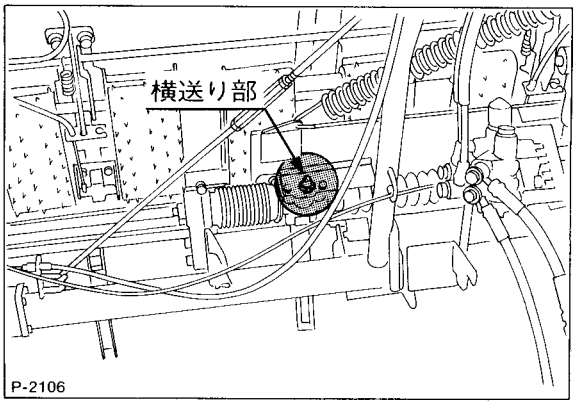
● しゅう動板 （S1-800R：3箇所 S1-650R：2箇所）

● 縦送り部



グリース給脂

● 横送り部



各部の調整

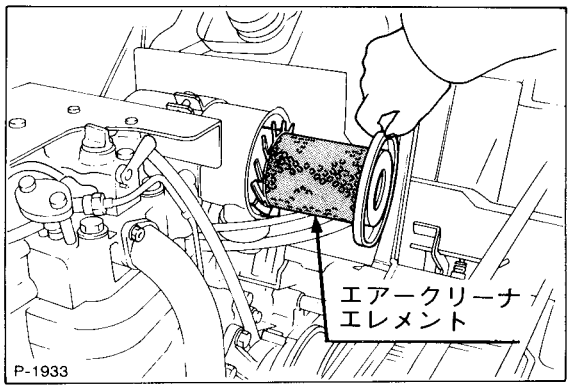
■エアークリーナの清掃

(1)ボンネットを開けてエアークリーナの蝶ボルトを外しエレメントを取出してください。

(2)エアークリーナにたまったゴミを捨て，内部をきれいにふいてください。

(3)エアークリーナエレメントは，軽くたたきながらゴミを落とすか，又はエレメントを回しながら，圧縮空気を内側から吹付けてください。

カーボンや油分の多い場合は，中性洗剤に15分間浸してから，数回ザブ洗いを行ない，清水でよくすすいでから，自然乾燥してください。



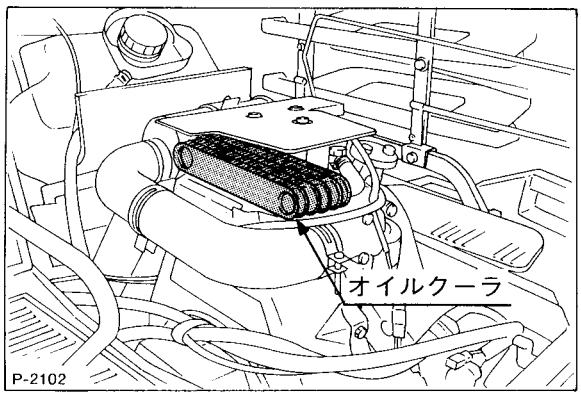
■オイルクーラの清掃

安全ポイント

● オイルクーラの清掃は必ずエンジンを停止して行なってください。

ボンネットを開けて，オイルクーラフィンの間に，ホコリが詰まっていないか点検し，エアーガンで取除いてください。

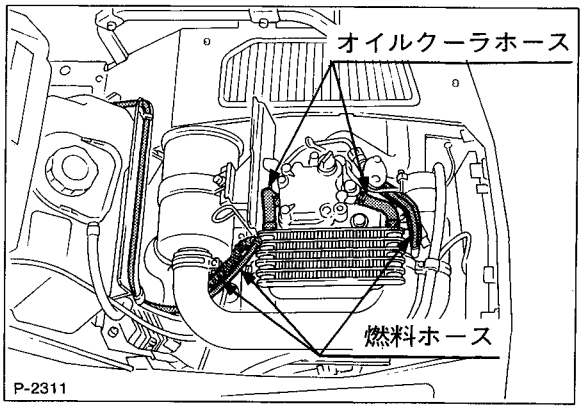
オイルクーラフィンはやわらかいので，ドライバやヘラを使うと傷めます。使わないでください。



各部の調整

■ゴムホースの交換

燃料ホース及びオイルクーラホースは，２年ごとに交換してください。２年以内でも点検時に漏れなどのあるときは，すぐに交換してください。



エンジンの始動と停止

始動のしかた

❶燃料コックを「開」にします。
❷変速レバー及び植付けクラッチレバーは必ず「中立」にします。
❸メインスイッチにキーを差込みます。
❹アクセルレバーを「中程」まで引きます。
❺主クラッチペダルをいっぱい「踏込み」ます。

注意

- **主クラッチペダルには安全スイッチがついています。ペダルをいっぱい踏込まないと，エンジンは始動しません。**

❻気温の低いとき(＋５℃以下)
「グロー」(予熱)位置でキーを止めて，約５秒間予熱してから，キーを「スタート」位置にしてください。予熱時間は５秒です。
❼メインスイッチのキーを「スタート」位置に回します。

注意

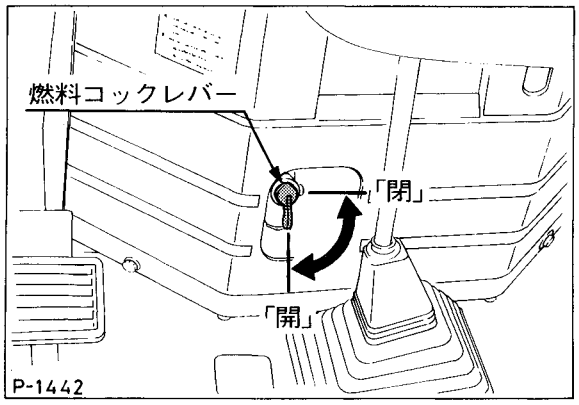
- **10秒以内で始動しなかった場合は，いったんスイッチを切って，30秒以上休止してから同じ操作をくり返してください。**

❽エンジンが始動したら，キーから手を離してください。メインスイッチは自動的に「ON」の位置に戻ります。

注意

- **エンジン回転中は，キーを「スタート」位置にしないでください。セルモータが故障します。**

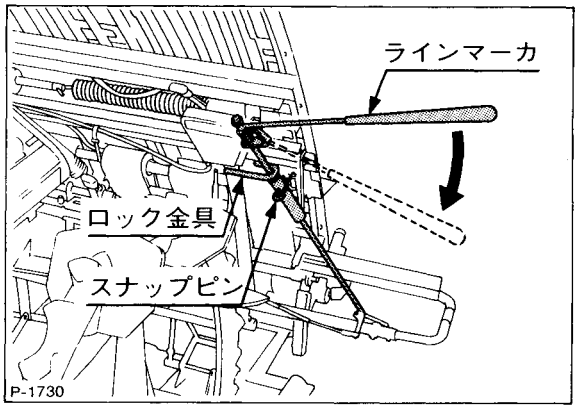
❾そのまま5分間ぐらい暖機運転してから作業してください。



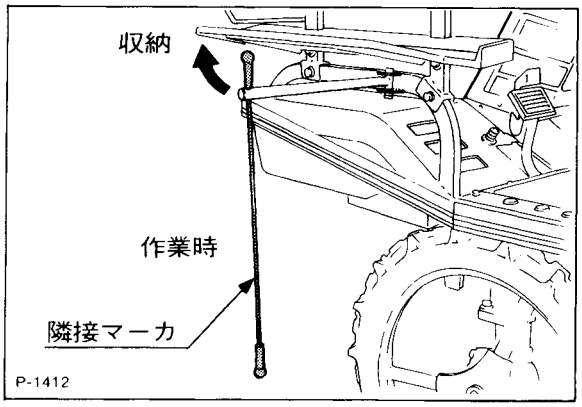
路上走行について

路上走行のしかた

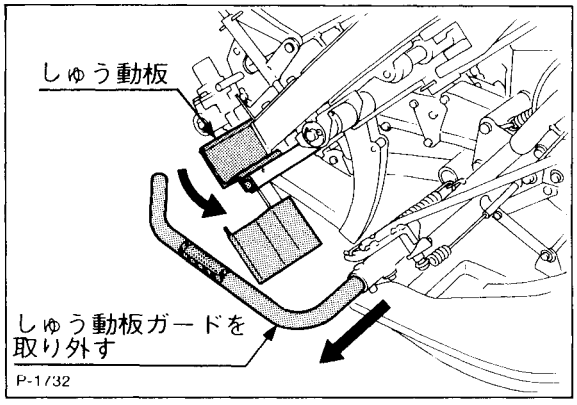
❶ラインマーカをロックします。
狭い道等でラインマーカが外に出て邪魔になるときは，ラインマーカの位置を変更してください。



❷隣接マーカを確実に収納します。



❸マスコットを倒します。
❹植付け部をいっぱい上にあげ，油圧昇降ロックを右に回しロックします。
❺変速を「**中立**」にして植付けクラッチを入れ，苗のせ台を機体中央に移動させます。
❻苗のせ台が中央にきたら植付けクラッチレバーを「**N**」の位置にセットしてください。
❼しゅう動板ガードを取外し，ボルトをゆるめて両側のしゅう動板を右図のように曲げてください。(S_1-650R)



❽S_1シフトは[1](低速)又は[2](中速)に，主変速は道路の状態に合せて「**植付**」又は「**移動**」にして走行してください。

路上走行のしかた

（S_1-800R）

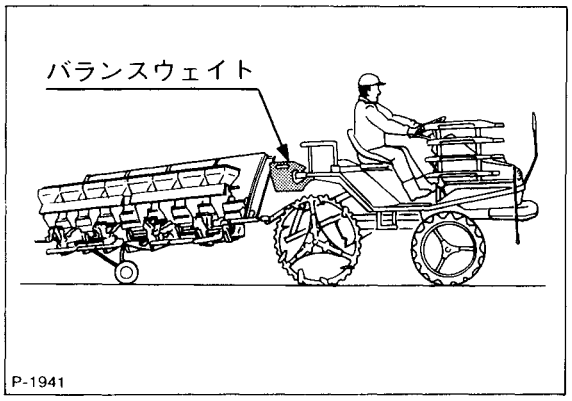
S_1-800Rは，本機部と植付け部を切離して走行してください。

◆本機と植付け部を同時移動する場合

❶狭い所，遠い所へ移動する場合は本機から植付け部を外し，バランスウェイトを延長ステップ部に取付け，トレーラ状態で走行してください。

注意

●バランスウェイトは，後輪タイヤ(補助車輪)と干渉しない位置に取付けてください。
（バランスウェイト取付用穴は，片側２ヵ所）



❷トレーラ状態で走行する場合は，昇降リンクを最も下げた状態で移動してください。

注意

●トレーラ走行の場合には，急旋回すると本機と植付け部が接触して破損・変形する恐れがありますので十分注意してください。

❸FCシフトレバーは必ず「低速」位置で走行し，加速・減速はフートアクセルで行なってください。

注意

(1)急ブレーキ・急旋回は転倒の恐れがありますのでしないでください。

(2)本機単独移動は絶対にしないでください。

トラックへの積み・降ろし（S_1-800R）

積み・降ろしのしかた（S_1-800R）

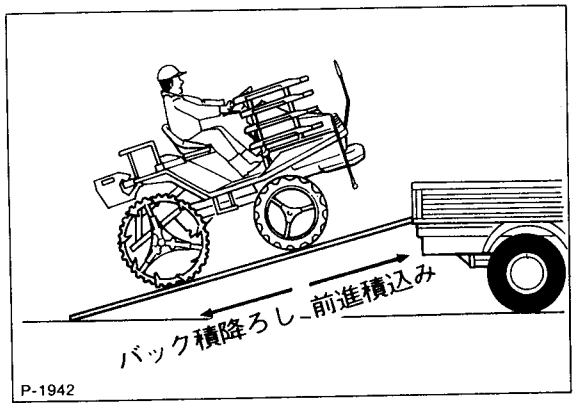
S_1-800Rは，本機部と植付け部を切離して積込んでください。

◆本機部の積み・降ろしの方法

乗用田植機は，植付け部装着時に適切な前後バランスになっているので，植付け部をはずすと前荷重になりますので，必ず積込みは前進，積降ろしはバックでゆっくりと行なってください。

注意

- **バック積込み，前進積降ろしをした場合，前方へ転倒し傷害事故が発生することがあります。（詳しくは，納入品安全説明書をよく読んでください。）**

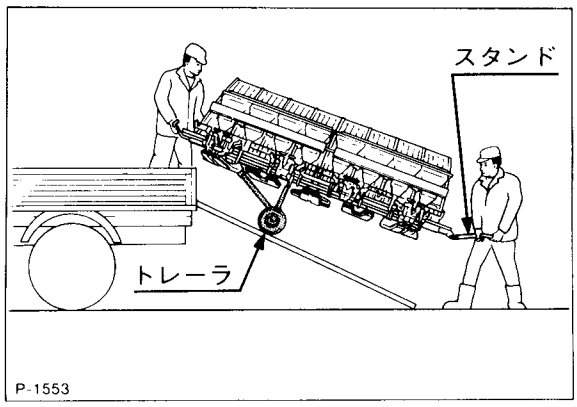


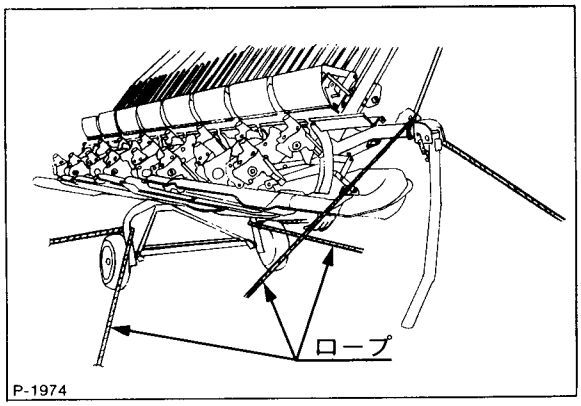
◆植付け部の積み・降ろしの方法

❶植付け部にトレーラを装着しスタンドを伸ばして，本機積込みに使ったあゆみ板2枚を使って，積み・降ろしを行なってください。

❷積み・降ろしする人は中央にあゆみ板がありませんから，踏みはずさないように特に気をつけてください。

❸積込みが完了したら，トレーラの車輪の前後に車止めを置きスタンドを立てて，右図のように両側からロープを掛けて固定してください。



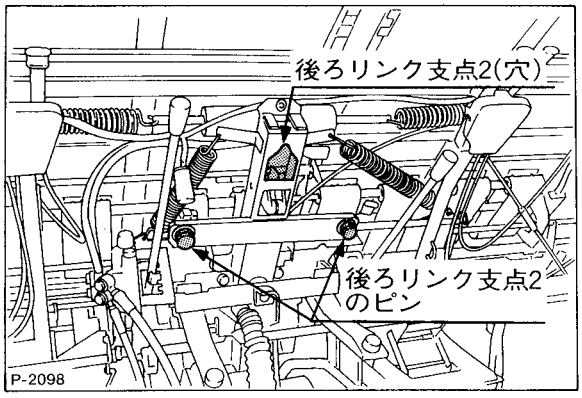


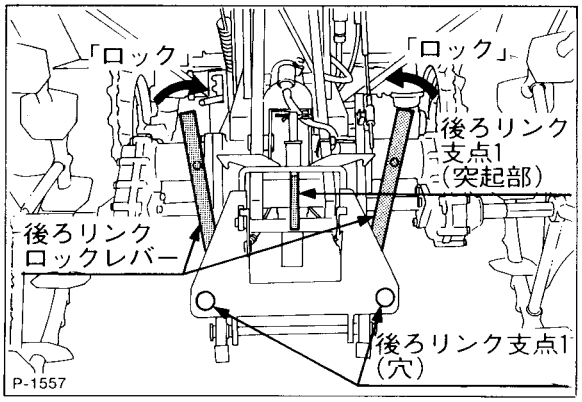
◆植付け部を本機部に装着する場合

❶平たんな場所に植付け部を置き，後ろリンク支点2の三角形状の穴に，後ろリンク支点1の突起が入るように，植付けクラッチレバーでリンクの高さを調節しながら本機部を後退させます。

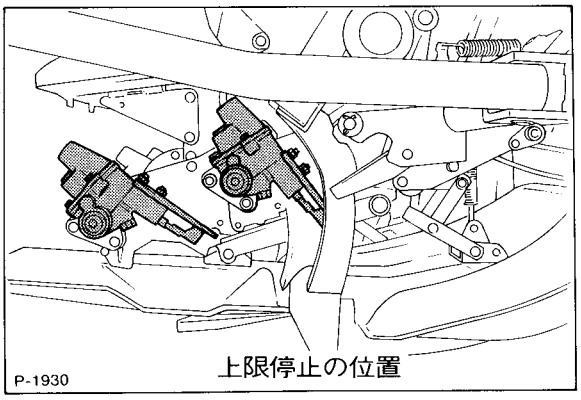
❷後ろリンク支点1の突起が後ろリンク支点2の穴に入ったら，植付けクラッチレバーを上昇位置にもっていき，植付け部を最上部まで上げます。

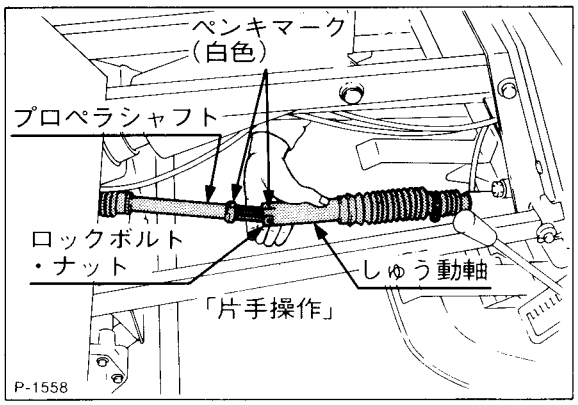
❸植付け部を後から軽く持上げて，後ろリンク支点2のピンを後ろリンク支点1の穴に入れ，後ろリンクロックレバーでロックします。





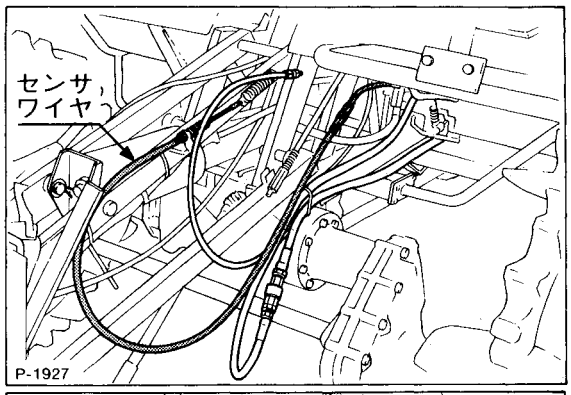
❹植付けアームが上限停止の位置にあるのを確認して，植付け部側のしゅう動軸を圧縮しながら，本機部のプロペラシャフトと連結します。本機側と植付け部側のプロペラシャフトのペンキマークを合せて接続し，ロックボルト，ナットで固定してください。

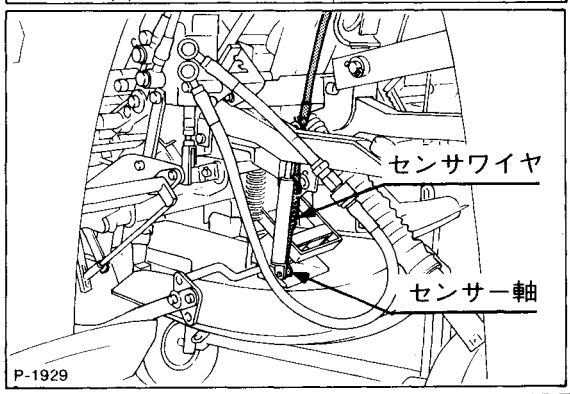




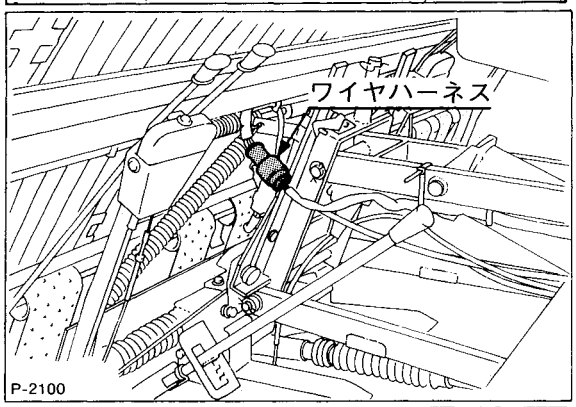
植付け部の着脱のしかた（S1-800R）

❺シート後方に取付けてあるセンサワイヤをはずし，植付け部のセンサー軸に取付けます。





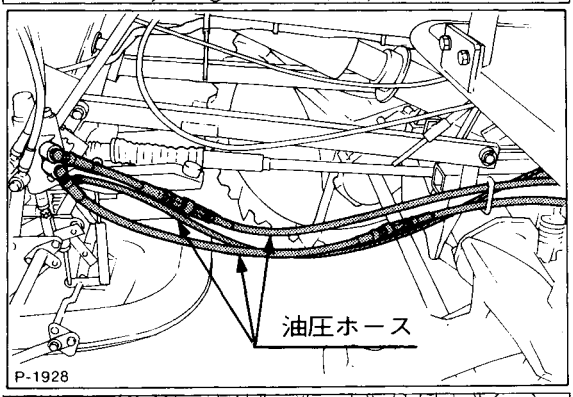
❻ワイヤハーネスを連結します。「カチッ」と音がするまで，確実にはめてください。



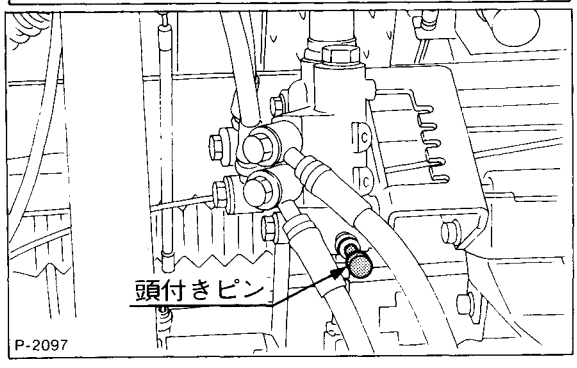
❼油圧ホースを連結してください。

注意

●必ずエンジンを停止して行なってください。



戻しホース(細いホース)はモンローバルブのジョイント部の頭付きピンを外して連結してください。外した頭付きピンは本機のジョイント部に入れてください。



◆植付け部の取りはずしとトレーラの装着

❶ワイヤハーネスをはずします。

❷センサワイヤのフロート側をはずし，シート後方に取付けます。

（センサワイヤをはずすときは，植付け部を上昇の位置でロックし，エンジンを止めてください。）

❸油圧ホースを外し，植付け部と本機のホースを各々つないでください。

注意

- **本機側の油圧ホースを連結しないでエンジンを始動すると，油圧ホースよりオイルがふき出します。**

❹戻しホース(細いホース)は，モンローバルブのジョイント部のツバを押しながら外してください。外したホースは，本機部のジョイントにつないでください。

❺後ろリンクロックレバーを解除します。

注意

- **後ろリンクロックレバーを解除せずに，植付け部を下降，分離させると，接続部に無理がかかり破損，変形することがあります。**

❻スタンドを立てます。

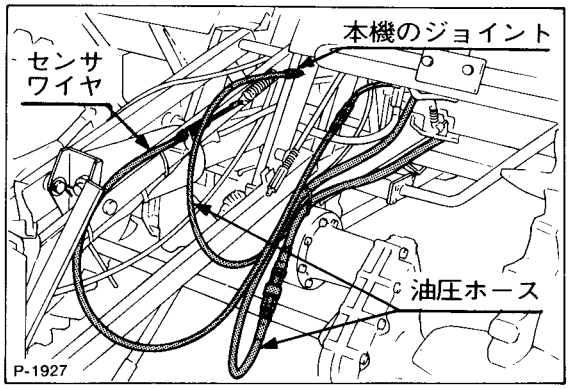
❼スタンドを，しゅう動板ガードに切り換えるときはスタンドピンを引上げて回動させてください。

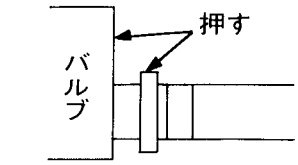
❽トレーラを次の要領で取付けます。

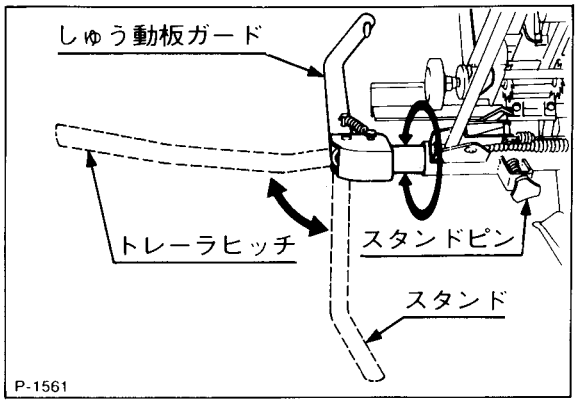
①トレーラの「**前の取付け板**」をつなぎパイプセンタのガイドに差込み，「**前の取付け板**」の「**切り欠き溝**」に前のピンを入れます。

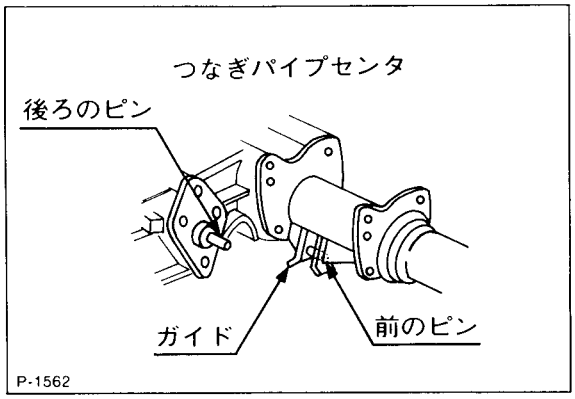
②トレーラのロックレバーを押えて，後ろの「**切り欠き溝**」が開いた状態にし，後ろのピンに差込みます。

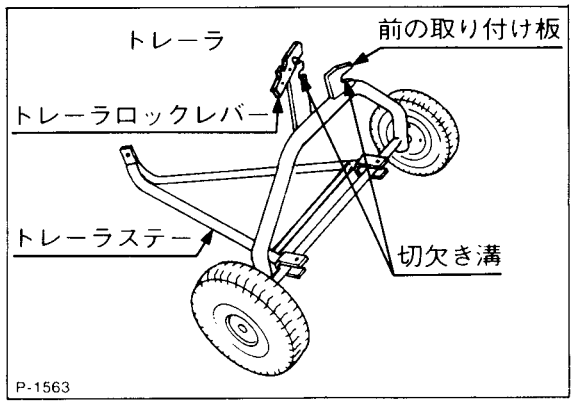
③前と後ろのピンにトレーラが引っかかれば，そのまま前に押し込むとトレーラロックレバーがロックされ，固定されます。





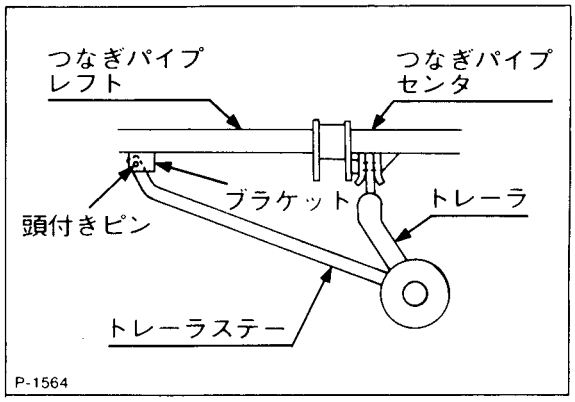


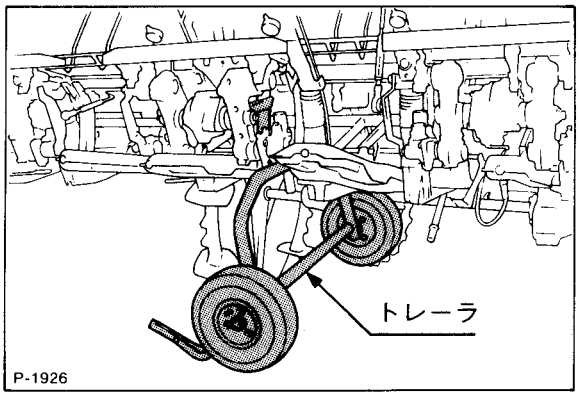




植付け部の着脱のしかた（S1-800R）

④トレーラステーの端をつなぎパイプレフトの取付けブラケットの位置に合せ，頭付きピンで固定します。





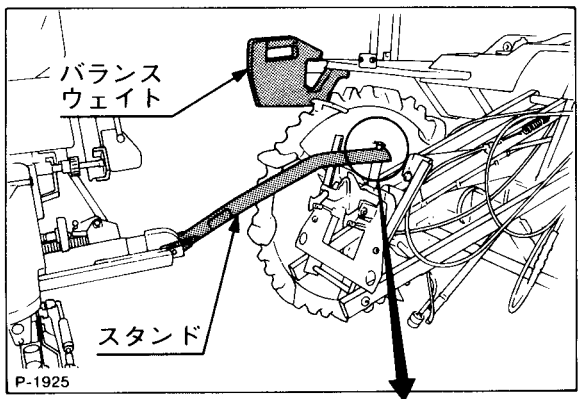
❾植付けクラッチレバーを「下降位置」にして植付け部をトレーラとスタンドが接地するまで下降させます。

❿本機部をゆっくり前進させると，植付け部が分離されます。

⓫分離した植付け部でトレーラ走行する場合は，トレーラのスタンドを伸ばし，後ろリンク支点1のピンにスタンドの穴を入れ，スナップピンで抜けどめをしてください。
このとき，後ろリンクロックレバーをロック位置に下げてください。下げないと，トレーラと干渉して変形することがあります。

注意

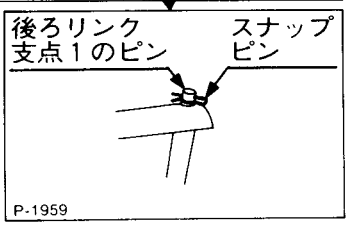
- **もし怠ると走行中に植付け部がはずれ，機械の破損や傷害事故を引起すことがあります。**



⓬ライディングステップ横のバランスウェイトを延長ステップ部に取付けてください。

注意

- **もし怠ると，急ブレーキ時，後輪が浮き転倒や傷害事故を引起すことがあります。**



田植作業前の準備

株数の決定と調節

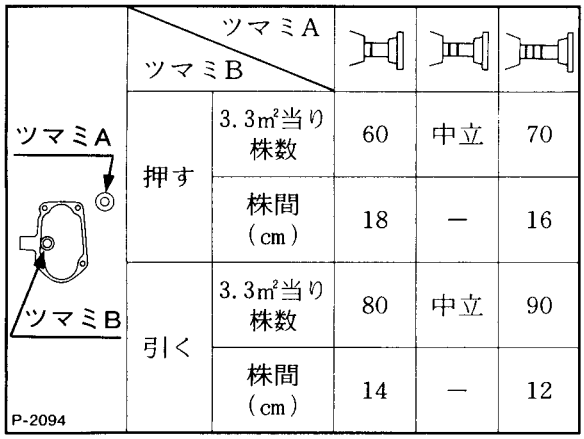
植付け株数は，下表を参照の上株間調節ツマミを切換えて行なってください。

注意

(1)この株数は車輪スリップ率10%のときのものです。

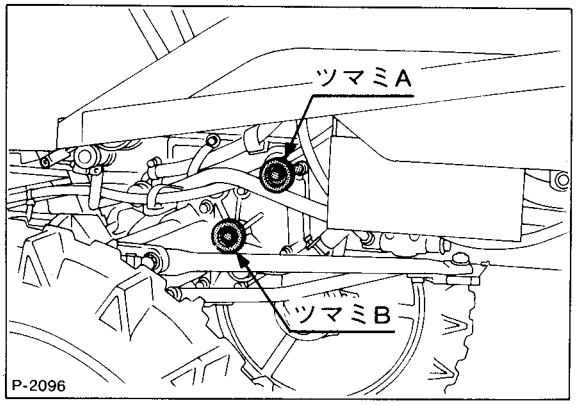
(2)株数を切替えるときは，変速を「中立」にして，エンジンを「低速」にして行ないます。又，植付けクラッチは必ず「中立」にしておいてください。

4段階に調節できます。

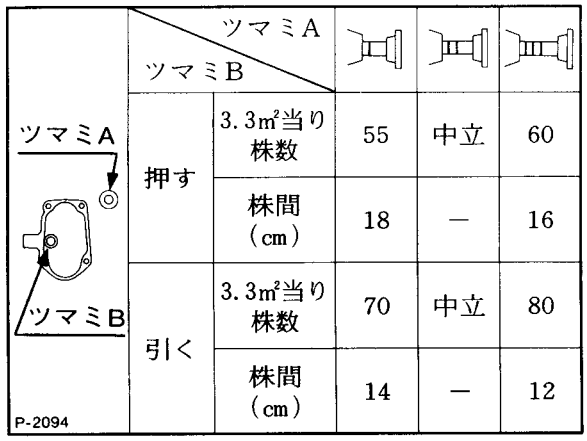


ツマミB	ツマミA			
押す	3.3m²当り株数	60	中立	70
	株間(cm)	18	—	16
引く	3.3m²当り株数	80	中立	90
	株間(cm)	14	—	12

• 出荷時は70株にセットしてあります。



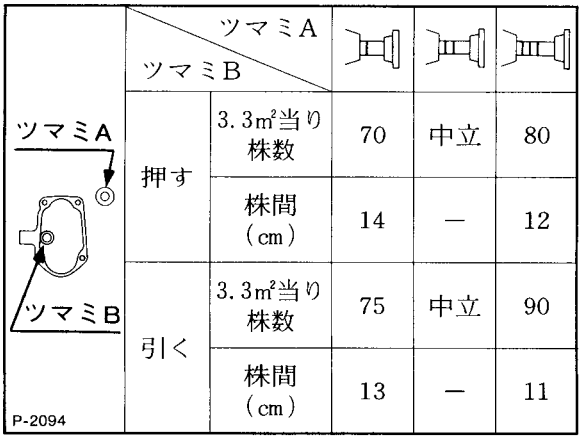
●C仕様



ツマミB	ツマミA			
押す	3.3m²当り株数	55	中立	60
	株間(cm)	18	—	16
引く	3.3m²当り株数	70	中立	80
	株間(cm)	14	—	12

• 出荷時は80株にセットしてあります。

●CL仕様



ツマミB	ツマミA			
押す	3.3m²当り株数	70	中立	80
	株間(cm)	14	—	12
引く	3.3m²当り株数	75	中立	90
	株間(cm)	13	—	11

• 出荷時は80株にセットしてあります。

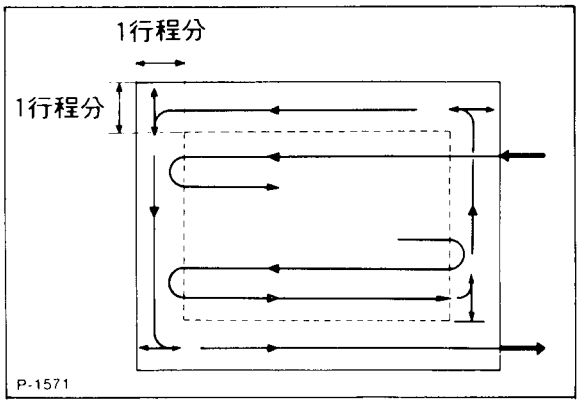
植付け作業のしかた

枕地のとりかた(S1-800R)

枕地及び外周部をあらかじめ1行程(8条)分の余裕を残して植付けはじめる。最後に外周を植えるようにすれば全面機械植えができます。

注意

- **枕地を植えるとき，畦が高い場合は，ラインマーカをロックし，収納して植付けを行なってください。**

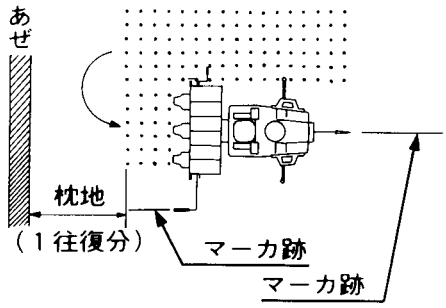


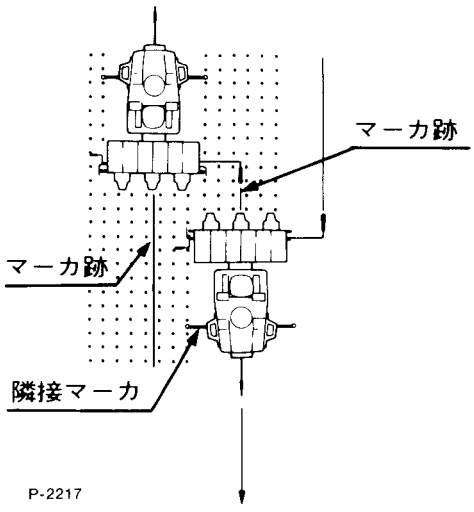
旋回のしかたとマーカの使いかた

❶枕地に近づいたらシフトレバーでスピードを落とし，植付けクラッチレバーを「上昇」にします。
(特に深いほ場ではアクセルレバーで減速せず，シフトレバーで減速してください。)

❷旋回する側のブレーキペダルを踏んでハンドルを回して旋回します。

❸マスコット・隣接マーカで隣接条間が合うようハンドルを合せ機体をまっすぐにします。
(マーカ跡に合せる)

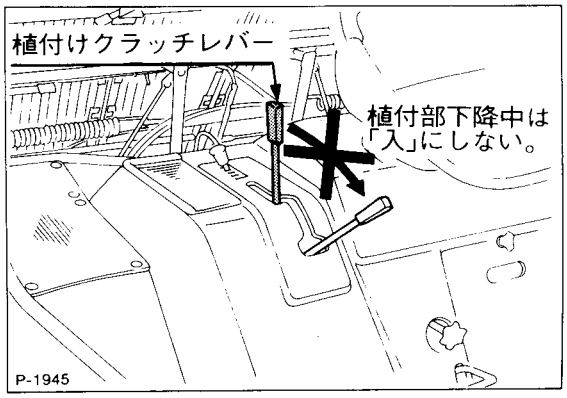




❹植付けクラッチレバーを「下降」にして植付け部をおろし，植付け部が接地したのを確認してから植付けクラッチレバーを「入」にした後ラインマーカをセットします。

注意

- **植付け部が接地しないうちに植付けクラッチレバーを「入」にすると，下降が遅れることがあります。**



❺適当な作業速度までスピードを上げて植付けます。

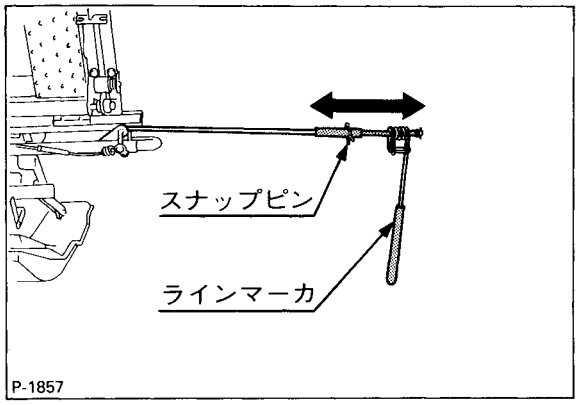
マーカの使いかた旋回のしかた

注意

(1)ラインマーカは隣接幅が調節できるようになっています。フロートの泥で苗が倒れる場合や，補助車輪を使用する場合は，隣接幅を広げて使用すると安心して植付けできます。

(2)水が深すぎると直進のための線が見えにくくなりますので1～2cmのヒタヒタ水程度にしてください。

(3)線が見えにくいときは植え終った隣の苗に，隣接マーカを合せて進みます。

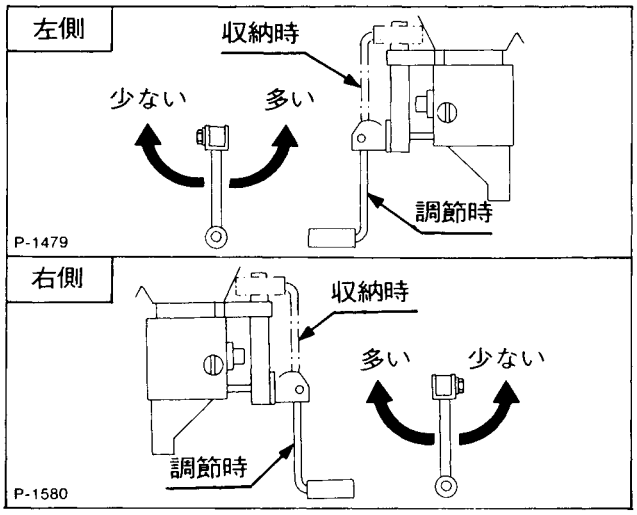


施肥量調節のしかた(S_1-800RF)

(1)施肥量はハンドルを回すだけで各条同時に調節できますが，基本条件が揃っていないと条ごとの繰出し量が揃いませんので，使用前には必ず次のことを確認してください。

- 各条の繰出し部のブラシの当てかたや摩耗状態が揃っていること。
- 各条の繰出し部のロールの開度目盛が揃っているか，カバーを開けて点検すること。

(2)ハンドルを回すときは，苗のせ台を右の方に寄せておくと調節が容易です。



注意

- 使用後は，必ず収納位置に戻してください。

各部の点検と交換

■点検・注油・調整一覧表

○：点検補給　△：交換

	項　　目	毎作業前	10時間	50時間	100時間	備　　考	参照ページ
エンジン部	エンジンオイルの点検	○	△	△	△	クボタ純オイル D10W30	4

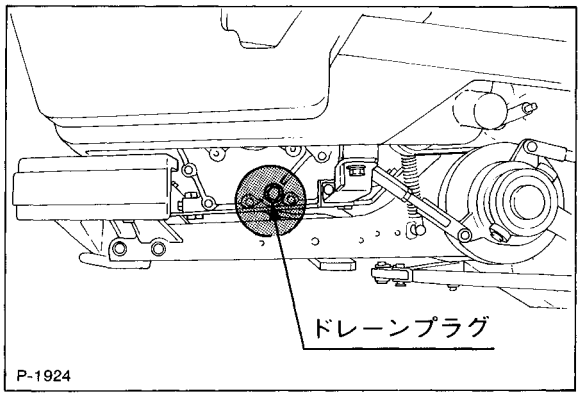
エンジンオイルの交換

■排油

暖機運転をしてから給油栓を外し，そのあとドレーンプラグを外してオイルを排出します。

注意

●排出時はオイルが暖まっているので注意してください。

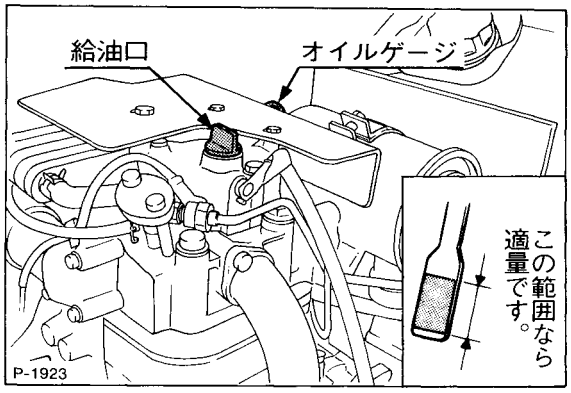


■給油

ドレーンプラグを締付けて給油口から適量給油し給油栓をきちんと締付けてください。
（4ページ参照）

注意

●伝導ベルトにオイルがかからないように注意してください。



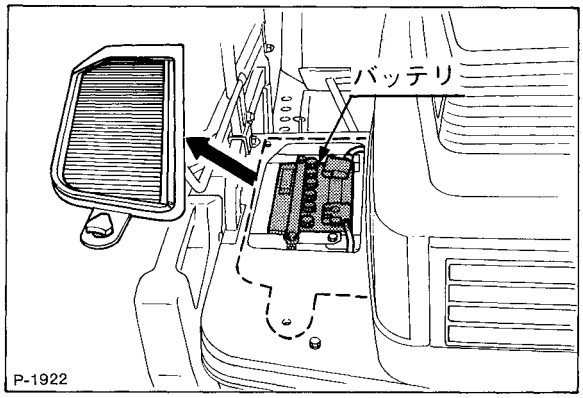
バッテリの点検保守

■バッテリの点検

工具を使わず簡単に行なうことができます。

注意

●バッテリの寿命がなくなり新品と交換する場合「38B 20L」のものを使用してください。

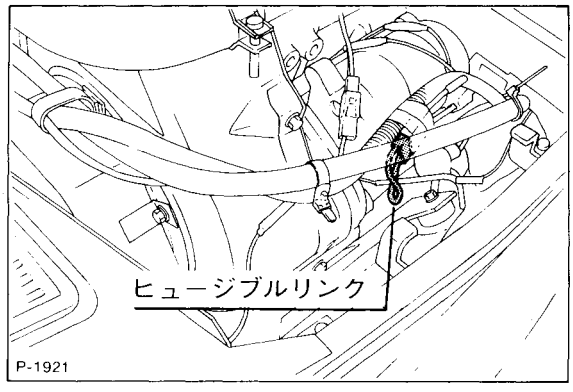


ランプの交換 電気配線の点検・ヒューズ・

■ヒュージブルリンクの交換

ヒュージブルリンクは配線を保護するためのものです。もし切れた場合は原因を調べ代用品を使用せず純正部品を使用してください。

品　番	品　名
59460-4171-1	ヒュージブルリンク



主要諸元

型式				S1-650R		S1-800R					
区分				UDM2 UDM2E	UDM2F UDM2EF	UDM2 UDM2E	UDM2F UDM2EF	UDM28 UDM2E8	UDM28F UDM2E8F	UDM2C UDM2CL	UDM2CF UDM2CLF
形式				自走式							
駆動方式				4輪駆動							
機体寸法	全長(作業時)(mm)			3220(3220)		3240(3240)		3385(3385)		3190(3190)	
	全幅(作業時)(mm)			2140(2870)		2785(3795)				2995(4135)	
	全高(作業時)(mm)			1455(1455)						2160(2160)	
	最低地上高(mm)			425							
重量(kg)				580	622	677	770	745	815	733	792
エンジン	名称			クボタ OC95-DP-1							
	形式			液冷4サイクル立形ディーゼルエンジン							
	総排気量(cc)			416							
	出力/回転速度(PS/rpm)			8.5/1800(最大10.0)							
	使用燃料			ディーゼル重油またはディーゼル軽油							
	タンク容量(ℓ)			8							
	始動方式			セルモータ方式							
走行部	かじ取り方式			インテグラル式パワーステアリング							
	車輪	種類個数	前輪	空気入ゴムタイヤ2個				空気入ゴムタイヤ2個 (E仕様：広幅空気入ゴムタイヤ2個)		空気入ゴムタイヤ2個	
			後輪	ゴム両ラグタイヤ2個				鉄両ラグタイヤ2個 (E仕様：空気入ゴムタイヤ2個)		ゴム両ラグタイヤ2個	
		外径(mm)	前輪	650				620		650	
			後輪	900							
	変速段数(段)			前進・後進共無段変速							
植付部	植付部の位置			後植え							
	植付部の昇降方式			油圧式							
	植付部の装着方式			平行4点リンク							
	植付方式			ロータリ式							
	植付条数(条)			6		8					
	植付条間(cm)			30						33	
	植付株数(株/3.3㎡)			60,70,80,90(ギヤーシフト式)						55,60,70,80 (ギヤーシフト式) (CL仕様：70,75,80,90 (ギヤーシフト式))	
	植付深さ(cm)			1～4(5段階)							
	一株本数調節方法			苗横送り量2段(26回，20回) 縦掻取量(8～18mm)							
植付速度(m/秒)				0.55～1.27		0.55～1.13					
作業能率(分/10a)				11～26	14～29	10～21	13～24	10～21	13～24	10～17	
苗の条件	苗の種類			マット苗							
	草丈(cm)			8～25							
	葉令(葉)			2～4.5							
予備苗とう載数(箱)				6(オプション6)		8(オプション8)		——		8(オプション8) (CL仕様：24)	
型式検査(国検)合格番号				90008		90009					

型式		S_1-650R	S_1-800R		
区分		UDM2F UDM2EF	UDM2F UDM2EF	UDM28F UDM2E8F	UDM2CF UDM2CLF
施肥機	使用肥料	一般市販の粒状化成肥料の中から当社の施肥田植機に適するものを選ぶ			
	ホッパ容量(kg)	30	40		
	植付条間×施肥条数 (cm×条)	30×6	30×8		33×8
	肥料繰出し方式	溝付きロール式			
	繰出し部の駆動	植付け部ロータリケースからの動力伝達			
	繰出し量調節	溝幅スライド式(同時ワンタッチ調節)			
	繰出しロールの付加機能	①繰出し量調節　②繰出し　③繰出し停止 ④残量排出　(②③④はロールスライドによる)			
	繰出し量調節範囲(kg/10a)	10～60			
	施肥方式	側条作溝施肥・強制埋設			
	覆土方式	フロートと覆土板による覆土			

機能装備一覧

装備＼区分		S_1-650R		S_1-800R		
		UDM2	UDM2E	UDM2 UDM28	UDM2E UDM2E8	UDM2C UDM2CL
エンジン始動方式	セルモータ式	○	○	○	○	○
フートアクセル		○	○	○	○	○
前輪	空気入ゴムタイヤ	○	○	○	○	○
後輪	ゴムラグ車輪	○	○	○	○	○
後輪ローリング		○	○	○	○	○
後輪デフロック		○	○	○	○	○
副変速	FCシフト(ノンクラッチ無段変速)	○	○	○	○	○
Eシフト		－	○	－	○	－
自動減速装置		○	○	○	○	○
4段株間		○	○	○	○	○
オートマーカ		○	○	○	○	○
ロータリチェア		○	○	○	○	○
あぜぎわクラッチ		○	○	○	○	○
苗取り量ワンタッチ同時調節		○	○	○	○	○
パワーステアリング		○	○	○	○	○
延長苗のせ台		○	○	○	○	○
モンロー装置		○	○	○	○	○

オプションについて

■補助車輪

品　名	品　番	対象機種
鉄車輪アッシ(補助)	45623-9320-1	S_1-650R
鉄車輪アッシ(補助)	45801-9320-1	S_1-800R

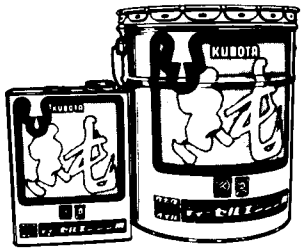
オイルはクボタ純オイルをお使いください。

●オイルは田植機の開発研究から生まれたクボタ純オイルをお使いください。

■エンジンには

クボタ純オイル D10W30

ディーゼルエンジン用

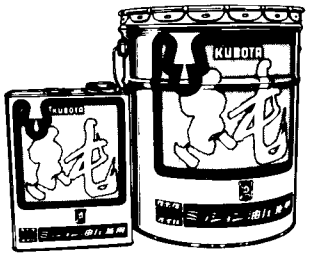


Z-1002

■田植機本体には

クボタ純オイル M80B

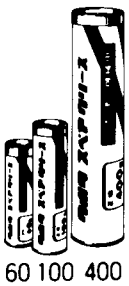
ミッション用



Z-1003

■グリースアップには

クボタスペアグリース

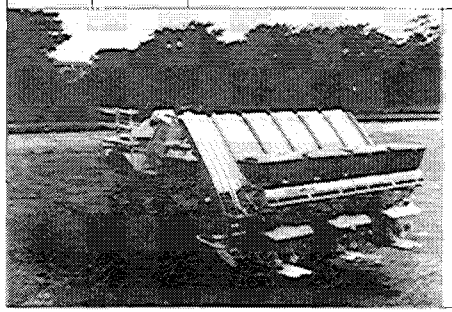


Z-1005　60 100 400

いずれもクボタが品質保証する最も適したオイルです。
お買い求めは，販売店または農協へご用命ください。

田植機（土付き苗用）検査成績表

合格番号	型式名	クボタ　S1－650RUDM
90008	依頼者名	株式会社　クボタ
	住所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番４７号



■形　　式：乗用型６条植
■機　　関：6.3 kW｛8.5 PS｝
■苗の種類：マット苗
■植付方式：回転式強制植付け
■施肥装置付（粒状肥料）
■植付部水平自動制御装置付
■パワーステアリング付

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ（格納時）
■全　　長：322 cm
■全　　幅：214 cm
■全　　高：146 cm
■質　　量：622 kg

2. 機関
■型式名：クボタＯＣ95－ＤＰ－１
■種　　類：４サイクルディーゼル*
■出　　力：6.3 kW｛8.5 PS｝/1800 rpm
■始動方式：セルモータ式
＊冷却方式：シリンダヘッドは液冷，その他は空冷

3. 走行部
■速度段：主変速　前進２段，後進１段（植付け１段）
副変速　無段
■駆動方式：４輪駆動
■車　　輪：前輪　空気入りゴム車輪
後輪　ゴムラグ車輪

4. 植付部
■苗の種類：マット苗
■植付部位置：後部
■フロート：３個
■植付部高さ制御方式：自動，油圧式
■植付方式：回転式強制植付け
■植付爪：板爪（押出し爪付き）
■条　　間：30 cm
■条　　数：６条
■株　　間：11，12，14，16，18 cm
■植付深さ：０～4.0 cm（５段）
■苗横送り量：11，14 mm/株
■縦かき取り量：９～19 mm（10段）

5. 施肥装置
■肥料の種類：粒状肥料
■肥料のホッパ：18.9 ℓ×２個
■繰出方式：溝付ロール式
■作溝位置：苗の側方4.5 cm，深さ５cm

Ⅱ　検査成績

1. 試験条件
■ほ場条件

ほ場区画	52 × 27 m
土性	シルト質壌土
水深	0 cm
耕盤までの深さ	16 cm
さげふり貫入深さ（注１）	8 cm

（注１）底面直径３６cm，高さ４４cm，質量115 gの円錐を１mの高さから落した時の貫入深さ。

■供試苗

品種	タマミノリ
播種量	170 g/箱（催芽籾）
葉令	2.4 葉
草丈	11.7 cm

■供試肥料

性状＼種類		高度化成	配合 A	配合 B
みかけの密度 g/cm³		0.90	0.96	1.00
粒度分布 %	2 mm以下	0.3	0.0	14.2
	2～2,83	14.6	13.8	49.0
	2.83～4	85.1	83.2	36.6
	4 mm以上	0.1	3.0	0.3

■運転条件

作業人員	２名
速度段	植付
設定株間	16 cm
植付深さ調節	浅い方から３段目
苗横送り調節	26 回取り（11mm）
縦かき取り量調節	多い方から７段目（11mm）
設定施肥位置	苗の側方 4.5 cm，深さ５cm
設定繰出量（注２）	40 kg/10a

（注２）車輪のすべり率10％の時の繰出量

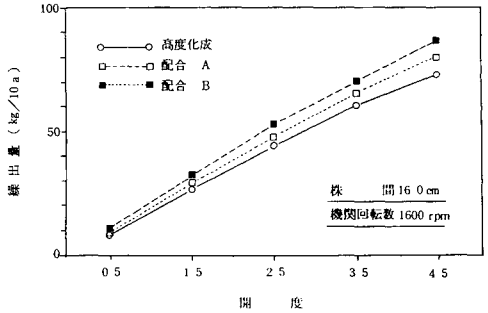
2. 作業能率・精度（供試肥料：高度化成）

植付面積（注３）	作業速度	車輪のすべり率	作業時間（注４）	ほ場作業量	苗使用量
1181 m²	1.07 m/s	8.9 %	19.4 min	36.6 a/h	18.7 箱/10a

施肥量	条間×株間	植付深さ	１株本数	全欠株率	連続欠株率
34.6 kg/10a	29.6×15.7 cm	3.3 cm	5.0 本	0.8 %	0 %

（注３）枕地は含まない。　（注４）苗及び肥料のほ場への配置時間は含まない。

3. 繰出性能
■開度と繰出量



単位：kg/10a

開度＼種類	高度化成	配合 A	配合 B
0.5	7.7	8.3	10.0
1.5	26.8	29.1	32.1
2.5	43.9	48.1	52.6
3.5	60.5	65.8	69.9
4.5	73.8	81.1	87.8

ただし，車輪のすべり率10％の時の繰出量

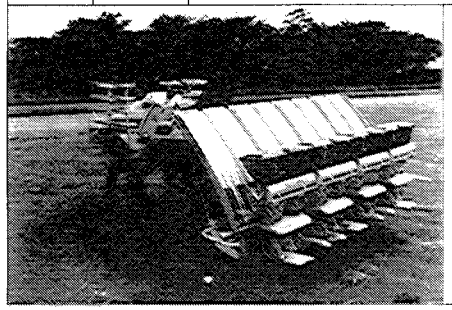
4. その他
■　植付部水平自動制御装置は，左右のフロートにかかる力から植付部の左右方向の傾きを感知し，植付部を田面に対して水平に保つものである。
■　安全装備：可動部・高温部の防護カバー，その他の装置

Ⅲ　付　　記

1. 本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成２年３月２０日農林水産大臣公表）に定められた田植機の第Ⅱ類に属するものである。

田植機（土付き苗用）検査成績表

合格番号	型式名	クボタ　S1－800RUDM	平
90009	依頼者名	株式会社　クボタ	生
	住　所	大阪府大阪市浪速区敷津東１丁目２番４７号	研



■形　　式：乗用型８条植
■機　　関：６.３ｋＷ｛８.５ＰＳ｝
■苗の種類：マット苗
■植付方式：回転式強制植付け
■施肥装置付（粒状肥料）
■植付部水平自動制御装置付
■パワーステアリング付

Ⅰ　主要諸元・構造

1. 機体の大きさ（格納時）
■全　　長：　324 cm
■全　　幅：　279 cm
■全　　高：　146 cm
■質　　量：　770 kg

2. 機　関
■型式名：クボタＯＣ９５－ＤＰ－１
■種　　類：４サイクルディーゼル*
■出　　力：６.３ｋＷ｛８.５ＰＳ｝／１８００ｒｐｍ
■始動方式：セルモータ式
＊冷却方式：シリンダヘッドは液冷，その他は空冷

3. 走行部
■速度段：主変速　前進２段，後進１段（植付け１段）
　　副変速　無段
■駆動方式：４輪駆動
■車　　輪：前輪　空気入りゴム車輪
　　後輪　ゴムラグ車輪

4. 植付部
■苗の種類：マット苗
■植付部位置：後部
■フロート：５個
■植付部高さ制御方式：自動，油圧式
■植付方式：回転式強制植付け
■植　付　爪：板爪（押出し爪付き）
■条　　間：３０ cm
■条　　数：８条
■株　　間：１１，１２，１４，１６，１８ cm
■植付深さ：０～４.０ cm（５段）
■苗横送り量：１１，１４ mm/株
■縦かき取り量：９～１９ mm（１０段）

5. 施肥装置
■肥料の種類：粒状肥料
■肥料のホッパ：１２.６ℓ×４個
■繰出方式：溝付ロール式
■作溝位置：苗の側方４.５ cm，深さ５ cm

Ⅱ　検　査　成　績

1. 試験条件
■ほ場条件

ほ場区画	５２×３５ m
土性	シルト質壌土
水深	０ cm
耕盤までの深さ	１６ cm
さげふり貫入深さ（注１）	１０ cm

（注１）底面直径３６ cm，高さ４４ cm，質量１１５ｇの円錐を１ｍの高さから落した時の貫入深さ。

■供試苗

品種	タマミノリ
播種量	１７０ g/箱（催芽籾）
葉令	２.４葉
草丈	１１.７ cm

■供試肥料

種類／性状		高度化成	配合 A	配合 B
みかけの密度 g/cm³		０.９０	０.９６	１.００
粒度分布（%）	２ mm 以下	０.３	０.０	１４.２
	２～２.８３	１４.６	１３.８	４９.０
	２.８３～４	８５.１	８３.２	３６.６
	４ mm 以上	０.１	３.０	０.３

■運転条件

作業人員	２名
速度段	植付
設定株間	１６ cm
植付深さ調節	浅い方から２段目
苗横送り調節	２６回取り（１１mm）
縦かき取り量調節	多い方から７段目（１１mm）
設定施肥位置	苗の側方４.５ cm，深さ５ cm
設定繰出量（注２）	４０ kg/１０a

（注２）車輪のすべり率 １０％の時の繰出量

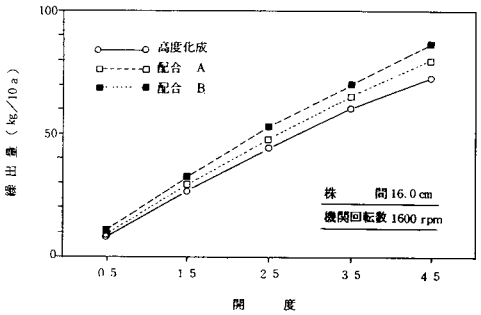
2. 作業能率・精度（供試肥料：高度化成）

植付面積（注３）	作業速度	車輪のすべり率	作業時間（注４）	ほ場作業量	苗使用量
１５３８ m²	０.９４m/s	７.３ %	２３.６ min	３９.４ a/h	１７.８箱/１０a

施肥量	条間×株間	植付深さ	１株本数	全欠株率	連続欠株率
３７.５ kg/１０a	３０.０×１５.９ cm	２.７ cm	５.２本	０.６ %	０ %

（注３）枕地は含まない。　（注４）苗及び肥料のほ場への配置時間は含まない。

3. 繰出性能
■開度と繰出量



単位：kg/10a

開度＼種類	高度化成	配合 A	配合 B
０.５	７.７	８.３	１０.０
１.５	２６.８	２９.１	３２.１
２.５	４３.９	４８.１	５２.６
３.５	６０.５	６５.８	６９.９
４.５	７３.８	８１.１	８７.８

ただし，車輪のすべり率１０％の時の繰出量

4. その他
■　植付部水平自動制御装置は，左右のフロートにかかる力から植付部の左右方向の傾きを感知し，植付部を田面に対して水平に保つものである。
■　安全装備：可動部・高温部の防護カバー，その他の装置

Ⅲ　付　　記

1. 本機は，高性能農業機械導入基本方針（平成２年３月２０日農林水産大臣公表）に定められた田植機の第Ⅲ類に属するものである。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

株式会社クボタ

本社	大阪市浪速区敷津東１丁目２番47号	〒556	電(06) 648-2111
東京本社	東京都中央区日本橋室町３丁目１番３号	〒103	電(03) 3245-3111
北海道支社	札幌市中央区北３条西３丁目１番地44(札幌富士ビル)	〒060	電(011) 214-3111
東北支社	仙台市青葉区本町２丁目15番11号	〒980	電(022) 267-9000
中部支社	名古屋市中村区名駅３丁目22番８号(大東海ビル)	〒450	電(052) 564-5111
九州支社	福岡市博多区博多駅前３丁目２番８号(住友生命博多ビル)	〒812	電(092) 473-2401
札幌支店	札幌市西区西町北16丁目１番１号	〒063	電(011) 662-2121
仙台支店	名取市田高字原182番地の１	〒981-12	電(022) 384-5151
東京支店	浦和市西堀５丁目２番36号	〒338	電(048) 862-1121
大阪支店	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8506
岡山支店	岡山市宍甘275番地	〒703	電(0862) 79-4511
福岡支店	福岡市東区和白丘２丁目２番76号	〒811-02	電(092) 606-3161
堺製造所	堺市石津北町64番地	〒590	電(0722) 41-1121
宇都宮工場	宇都宮市平出工業団地22番地２	〒321	電(0286) 61-1111
筑波工場	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 5112
枚方製造所	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1121
堺部品センター	堺市築港新町３丁８番	〒592	電(0722) 45-8601
宇都宮部品センター	宇都宮市平出工業団地38-16	〒321	電(0286) 63-6336
筑波部品センター	茨城県筑波郡谷和原村字坂野新田10番地	〒300-22	電(029752) 2293
枚方部品センター	枚方市中宮大池１丁目１番１号	〒573	電(0720) 40-1797
北海道部品センター	北海道札幌郡広島町字大曲186-37	〒061-12	電(011) 376-2335

株式会社クボタアグリ東北

秋田事業所	秋田市寺内字大小路207-54	〒011	電(0188) 45-1601
仙台事業所	宮城県名取市田高字原182-１	〒981-12	電(022) 384-5151

株式会社クボタアグリ東京

東京事業所	浦和市西堀５-２-36	〒338	電(048) 862-1121
新潟事業所	新潟市上所上１-14-15	〒950	電(025) 285-1261

株式会社クボタアグリ大阪

金沢事業所	石川県松任市下柏野町956-１	〒924	電(0762) 75-1121
名古屋事業所	愛知県一宮市観音町１-１	〒491	電(0586) 24-5111
大阪事業所	大阪府堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号	〒590	電(0722) 41-8550

株式会社クボタアグリ中四国

米子事業所	米子市米原７丁目１番１号	〒683	電(0859) 33-5011
岡山事業所	岡山市宍甘275	〒703	電(0862) 79-4511
高松事業所	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３	〒769-01	電(0878) 74-5091

株式会社クボタアグリ九州

福岡事業所	福岡市東区和白丘２-２-76	〒811-02	電(092) 606-3161
熊本事業所	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１	〒861-41	電(096) 357-6181

品番 45651－9151－8